

佐野市田沼駅周辺地域  
佐野市産業政策課、佐野市地域おこし協力隊

10班 コミュニティデザイン学科 白井茉奈 砂川奏斗  
建築都市デザイン学科 中村文香 庄司翼 岡本大輝  
社会基盤デザイン学科 長倉佑真 林愛花  
グループ指導教員 長田哲平

## 1- 背景

平成17年、旧佐野市と田沼町及び葛生町が合併したことで、田沼地域は「中心市街地活性化基本法」が失効され、市街地の活性化が希薄化しつつある。そこで、令和3年に「佐野市立地適正化計画」が策定され、持続可能な都市構造を目指しながら、賑わいの創出を図ることとなった。現状として田沼地域では**空き家の増加が著しく、利活用可能な空き家は約100件**、さらに空き家・空き店舗を使った**新規出店数は田沼地域では0件**である。そのため、佐野市では、空き家・空き店舗を活用した田沼地域市街地の賑わい創出に向けた施策の立案を図っている。



図1 佐野市

## 2- 目的

地域の賑わいをどのように作り出すかという課題に対し、外からたくさん人を呼び込むのではなく、**地域住民主役の賑わいを創出する**という目的を設定した。地域住民が新たな魅力の発見とともに**愛着を持ってまちづくり**を行う機会を提供する。

## 4- 調査方法

### 【オンラインアンケート調査】

実施期間：2023年11月10日（金）～11月30日（木）  
懐かしの味に関するオンラインアンケートを実施した。  
最終的な回答数は、115件。（20代：4人、30代：30人、40代：36人、50代：28人、60代：10人、70代：6人、無回答：1人）

### 【現地調査】

実施日：2023年11月19日（日）10～12時 角町駐車場での福引きイベントにて人気投票のような形で、懐かしいと思う味に1人1票投じる。佐野市による事前調査で票の多かった上位6つを抽出した。前述の6つ以外で懐かしの味が会話の中で出てきた際は、別で記録し、付箋にまとめた。

## 5- 調査結果

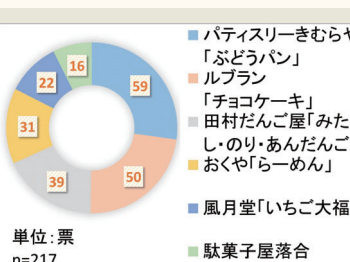


図3 現地調査の結果の円グラフ

現地調査の結果、総数217票のうち**パテスリーきむらやの「ぶどうパン」が59票**を獲得し、最も多かった。その次は、ルブランのチョコケーキ、田村だんご屋のだんごと続いた。また、地域住民の方達から事前調査からは知り得なかった多くの思い出を聞くことができた。

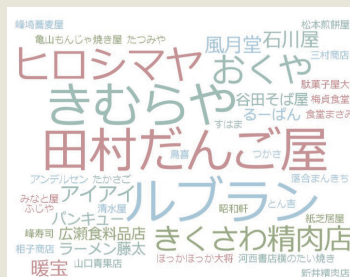


図4 オンライン調査の結果のテキストマイニング

オンライン調査の結果、**ルブランが23票**で最も多く、田村だんご屋とパテスリーきむらやが20票、おくやが14票と続いた。自由記述にしたことで現地調査よりも票数が分散した。また、上位のお店は現地調査とあまり変わらず、その**人気が地域内で愛された味であったことがわかった**。

## 3- 私たちの歩み

2ndサイクルでは、地域の魅力発見、地域の交流活性化、地域への愛着を深めるという目的からワークショップ開催を目指す。田沼地域の中学生を対象に「あったらいいな」と思える理想の街を考える**ワークショップ「ためまミライ会議」**を計画した。しかし、9月開催を目標に準備を進めるも、応募が0人だったため、**ワークショップを中止**する。去年度実施したワークショップの中で「田沼駅周辺でなくなってしまった味を復活させたい」という意見が出た。これをヒントに、「食」という生活に身近なテーマと、空き店舗を使った新規開業者の獲得といった点から「懐かしの味復刻プロジェクト」として佐野市と共同企画する。



図2 9月開催予定だったWSのチラシ

### <反省点を踏まえた今後の計画>

- ① 私たちなりのアプローチだけではなく**地域のニーズを把握する**。
- ② 来年度以降も繋がりを持って活動できるように**長期的な視点**を持つ。
- ③ **限られた時間**の中で、優先順位を考え、やれることを行うこと  
田沼駅周辺に昔あったお店の味を復刻する「懐かしの味復刻プロジェクト」の活動を開始する。

## 6- 提案

来年度以降の活動として、調査結果から票の多かった**上位の「味」を商品開発を通して復活させる**ことを提案する。学生、地域住民、事業者（地域パートナーを含む）の3者が協働し、試作会をWS形式で行い、懐かしの味にできる限り近づける。同時に空き店舗調査を行い、懐かしの味の販売とサテライトオフィス等の**地域住民の憩いの場となるコミュニティカフェの開業に向けた活動**を行う。これにより本来の目的にある空き店舗率の改善を達成したいと考える。

### 【試作会】

- ・ワークショップ形式で地域住民に参加してもらう
- ・食を通して地域交流を深める
- ・参加者の意見を自由に取り入れる

### 【試食】

- ・田沼地域内のイベントに参加
- ・意見をもらう
- ・レシピの改良をする
- ・「懐かしの味」の再現度を高める

### ソフト面の賑わい創出

- ・試作会・試食で地域住民の集い
- ・一つのものを作り上げる一体感と地域コミュニケーションの活発化

### ハード面の賑わい創出

- ・飲食店での試食コーナーの設置
- ・キッチンカーなどで出張試食コーナー
- ・空き店舗を活用したコミュニティカフェの開設

私たち一年の活動を整理し、来年度への引き継ぎをしやすいように昨年同様パンフレットを作成した。パンフレットには、調査結果と感想、商品のイメージ図や復刻に向けた活動の流れを記載した。本年度3月には、田沼駅周辺の約3300世帯にパンフレットを配布するほか、田沼で一番大きなイベントである初午祭で報告会も行う予定である。これにより、調査に協力して下さった方々を含む田沼地域住民の皆様へ活動の周知を行う。**本学生による地域コミュニティの輪を広げ、「食」による賑わい創出**を考える。



図5 今年度の活動報告パンフレット  
上：表紙 下：来年度活動例